明日から始められる次世代型自転車通勤

一橋大学　　岡本ゼミ B

大久保直人　松本蒔子　末吉威吹　賀文彩　李知信

１．緒言

現在ほとんどの人が電車やバスといった公共交通機関を利用して通勤していると思われる。そしてこのような公共交通機関を使って通勤している人の中には通勤ラッシュで不快な思いをしたことがある人が多いのではないだろうか。近年、スポーツバイクの人気が高まり自転車通勤が以前に比べ注目を集めているが、個人の体力の問題や施設の利用料金が高額であることから自転車通勤のハードルはまだまだ高いままである。

そこで私たちは、今までにはない、誰でも気軽に自分で自転車通勤のルートを選べるシステムを提案することで、自分の通勤スタイルに不満を持つ人に新たな通勤スタイルの選択肢を提供しようと思う。

私たちが自転車通勤を推奨することによって、上記のような通勤ラッシュでのストレスを感じている多くの人々をそのストレスから解放するとともに、誰もが運動習慣が身に付くことで健康になり、余暇活動の中で自転車を楽しむ充実した生活を送れるようになる。社会的メリットという視点で言えば、CO2 削減などで環境問題への貢献ができ、健康増進によって医療費の削減もできる。また、自転車通勤促進の追い風として、東京オリンピックに向けて首都圏ではこれから大規模な自転車レーンの増設が行われるため自転車通勤を行うのに適した環境が整えられることがあげられる。

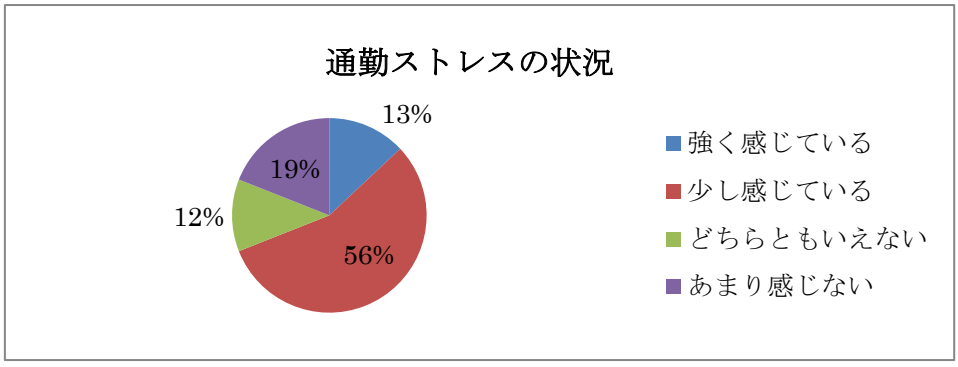

表１　国土交通省による「交通の健康学的影響に関する研究Ｉ」からのデータ

２．現状

ここでは自転車通勤を推進する上での課題について述べる。

①　自宅から会社までの距離が遠いという言い訳（個人の課題）

自転車通勤といえば自宅から会社まで全距離を自転車で通勤しなければならないと考える人が多い。健康のために自転車通勤を始めたいが、いきなり長距離を走るのはつらい、といった理由で断念している者が多い。（「自転車通勤の推進に関する基礎的研究」より）

② 通勤手当、従業員管理の問題（経営者側の課題）

自転車通勤と言っても毎日自転車で通えるわけではない。体調がすぐれない日や天気が悪い日、寒暖の激しい時期等は電車で通勤したいと思う会社員が多いと考えられる。その場合会社側にとっては、通勤手段が日によって変わることで通勤手当の計算が複雑になるため、自転車通勤制度導入に対して消極的になってしまうケースも多いと考えられる。また従業員が駐輪場を確保しているのか、本当に自転車で通勤しているのかといったような従業員の管理が難しいという問題もある。(「ゴールドウイン」とのインタビューより、2014年9月)

③ 施設の問題（インフラの課題）

自転車通勤をする際には、シャワーやロッカー、駐輪場が必要となってくる。長距離を走るため、汗を流してから仕事を始めたいというニーズが多い。しかし会社側にはシャワーやロッカー、駐輪場などの設備が十分ではなく、特に都心のオフィスではそれらの設備の確保は難しいものとなっている。

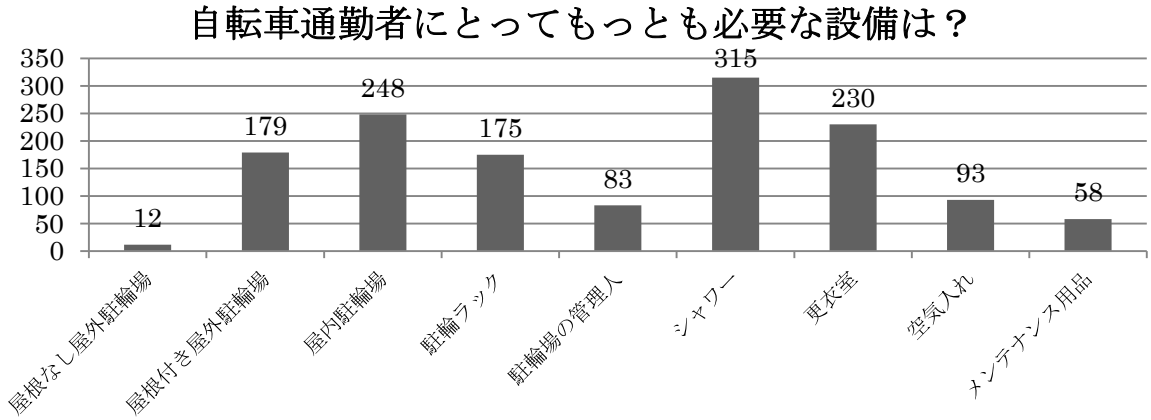

表 2　日本サイクリング協会による「平成22年度自転車活用による環境改善方策調査研究事業」からのデータ

３．提言内容

３．１．新たなライフスタイル

私たちは新たなライフスタイルとして、距離を選べる自転車通勤を、自転車通勤制度の導入を考える企業とその従業員、またチェーン店のフィットネスクラブに対して提言する。具体的には通勤ルートの途中にあるシャワー、ロッカー、駐輪場を持つ施設を次世代型駐輪場として利用することで、自宅から次世代型駐輪場まで自転車通勤をしてその後公共交通機関を利用して通勤するといったものである。これによって、自分で走る距離を決めることができるので、柔軟な自転車通勤が可能になる。また、自転車通勤に慣れないうちは

短い距離で、慣れてきたらだんだん距離を増やすといったようにステップアップしていくことが可能なので、自転車通勤を始めるハードルを低くすることができる。

しかし、このライフスタイルを普及させるにあたっては上記で述べたように、シャワー、ロッカー、駐輪場などの設備を持つ次世代型駐輪場としての役割を果たせる施設と、通勤手当の計算や従業員管理などが容易になるシステムが不可欠となってくる。

３．２．フィットネスクラブ

そこで、私たちが次世代型駐輪場の役割を果たす施設として考えたのが「フィットネスクラブ」である。フィットネスクラブ側に駐輪場、シャワー、ロッカーのみを利用できるプランを作ってもらえれば、次世代型自転車駐輪場として利用できる。

３．２．１．なぜフィットネスクラブか

①　設備の充実

次世代型駐輪場として必要な、駐輪場、シャワー、ロッカーの３つの要素を全て併せ持つ施設である。

②　駅から近い

有名フィットネスクラブチェーン店の位置を見ると、駅から徒歩１分、２分のところが多いことが分かる。これによって途中の駅までの自転車通勤も、会社の近くまでの自転車通勤も気軽にできるようになる。

③　会員のデータ管理

チェーン店として運営されているフィットネスクラブは会員がリスト化されている。これによってフィットネスクラブが従業員の利用した時刻をまとめ、会社側にデータを送るシステムを導入してもらえれば、手当ての計算、授業員の管理が容易にできるようになる。

３．２．２．　問題点とその解決策

ただ、フィットネスクラブを次世代駐輪場として使う上で、様々な問題点が考えられる。

①　駐輪場が無い場合

フィットネスクラブに駐輪場がない場合がある。その解決策として駐車場の一部分を駐輪場に改装してもらうことを提案する。スポーツウェアメーカーの「ゴールドウイン」では、駐車場の３台分を改装することで自転車を３０台程度とめることが可能になった。また、スポーツバイクがとめられるラックは１万円程度で、費用も負担にならないと思われる。

②　保険や労災に関連する問題

自転車通勤において事故が起きた場合の補償や責任問題というものが障壁となっている。その解決策として自転車通勤者には自転車保険に必ず加入してもらうことを提案する。また、労災に関してもフィットネスクラブが通勤するルート内なら問題ない。しかし、途中

でシャワーを浴びたりすると通勤中断になってしまうので、労災の範囲にはならないが、先立って前提条件にした私的の自転車保険なら十分カバーできると思われる。

３．２．３．　この案のメリット

① 自分のライフスタイルに合わせて自転車通勤が可能になる。

② 自転車通勤制度を導入するときに、新しく設備を作る必要がない。

③ 現状の次世代型駐輪場より安い費用で次世代型駐輪場が利用できる。

④ 従業員の管理、通勤手当の計算が容易になる。

⑤ フィットネスクラブ側の新たなビジネスチャンス。

→　朝の通勤時間帯の施設の有効活用と、従来フィットネスクラブを利用してこなかった層に対する宣伝効果・アップセル効果が見込まれるため、利益が発生する。

４．今後の展望

将来的に自転車通勤と､フィットネスクラブの次世代型駐輪場としての利用が普及していった場合、駐車場を改装したとしてもフィットネスクラブの駐輪場が足りなくなることが想定される。今回、私たちはシャワー、ロッカー、駐輪場という３つの要素を全て併せ持つためフィットネスクラブを次世代型駐輪場の候補にあげたが、それらの要素を別の施設で利用してもらうということも将来的に考えられる。例えば銭湯や漫画喫茶、ホテルなどでシャワー・ロッカーを使い、TIMES や公営駐輪場で駐輪場を利用するといったようにである。従業員管理に関しても、新たなスタイルの自転車通勤が一般的になるまで広まり、それぞれの施設でタイムカードの発行などを行ってもらえるようになれば問題ないだろう。

こういったようにさまざまな施設を次世代型自転車駐輪場の一部として使用できるシステムを作れば、将来的に次世代型駐輪場、また新たなライフスタイルとしての自転車通勤が広まっていき、このムーブメントは日本人の働き方を変えるに違いない。

５．参考資料

エニタイムフィットネスホームページ、コナミスポーツクラブホームページ
＜http://www.anytimefitness.co.jp/＞、＜http://www.konamisportsclub.jp/＞
国土交通省：国土交通政策研究第５５号「交通の健康学的影響に関する研究Ⅰ」
＜http://www.mlit.go.jp/pri/houkoku/gaiyou/pdf/kkk55.pdf＞
日本サイクリング協会：平成 22 年度「自転車活用による環境改善方策調査研究事業」
＜https://www.j-cycling.org/image_about/PDF_research_11.pdf＞
「自転車通勤の推進に関する基礎的研究」留守 洋平
＜http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/hp/thesis/2004/05rusu.pdf＞